

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

臨時報（第2報）

千葉県農林水産部

平成23年8月22日

◆震災で田植えを遅くした稲の栽培管理◆

[遅植えした稲の出穂期・成熟期の予測]

品種	植付時期	場所	出穂期	成熟期 予測
コシヒカリ	5月16日	千葉市	8月3日	9月12日
コシヒカリ	5月25日	千葉市	8月6日	9月17日
コシヒカリ	6月9日	香取市	8月17日	10月1日
コシヒカリ	6月10日	千葉市	8月13日	9月26日

5月下旬植えは、9月20日頃に成熟期となる見込みです。

6月上旬植えは、9月25日～10月1日に成熟期となる見込みです。

[これからの管理の留意点]

○ 出穂2週間後までは湛水管理！

通常の田植えと出穂時期が異なるので注意が必要です。カドミウムの吸収を抑えるため、出穂2週間後までは湛水管理とします。出穂2週間後から出穂25日後までは間断かんがいを行いましょう。

○ 海水流入田での稲刈り前の落水について

海水が流入し、除塩作業で田植えが遅れたほ場では、例年よりも遅くまで水管理が重要となってきます。刈り取り作業のしやすさを優先して落水時期を早めると、登熟不良や未熟粒の発生等、品質や収量の低下を招きます。また、海水が流入した水田では、落水により塩分濃度が高まることが予想されます。

出穂から約25日までは落水しないで、刈り取り1週間程度前まで可能な限り給水するようにしましょう。

○ 斑点米のカメムシ類の防除

遅植えの稲は出穂が遅くなり、集中的に被害を受けやすいので、注意が必要です。斑点米のカメムシ類の被害は成虫よりも幼虫による被害が大きく、乳熟期～糊熟期の吸汁によって被害が発生します。周辺ほ場へのドリフトや、収穫使用前日数及び使用回数に十分注意して防除を励行しましょう。薬剤は2ページの表1を参照してください。

○ いもち病の防除

葉いもちの発生がみられるところでは出穂後でも、周辺ほ場へのドリフトや、収穫使用前日数及び使用回数に十分注意して薬剤防除を行いましょう。薬剤は表2を参照してください。

○ 農薬のドリフトには要注意

用水の供給が遅くなって、地域内の田植え時期が拡がった状況にあり、出穂時期がばらつくことが予想されます。農薬に使用できる収穫前日数を確認して散布しましょう。

特に粉剤、液剤はドリフトを起こさないように注意しましょう。

- 風の弱いときに風向きに注意して散布する
- 散布の方向や位置に注意する
- ドリフト低減ノズルなど適切なノズルを用い、適正な圧力で散布する
- 適正な散布量で散布する
- タンクやホースの洗浄を徹底する
- 近接する住宅や作物の生産者等と連携する
- 緩衝地帯を設ける
- 遮蔽物を設ける
- 飛散しにくい農薬や剤型を選ぶ

表 1 カメムシ類の主な防除薬剤

薬剤名	有効成分名	10a当たり散布量	使用時期/回数
エルサン粉剤 3DL	PAP	3kg	収穫 7 日前まで/2 回
トレボン粉剤 DL	エトフェンブロックス	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
MR. ジョーカー粉剤 DL	シラフルオフェン	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回
MR. ジョーカーEW 2,000 倍液	シラフルオフェン	60~150 リットル	収穫 14 日前まで/2 回
ベストガード粉剤 DL	ニテンピラム	4kg	収穫 14 日前まで/4 回
スタークル/アルバリン粉剤 DL	ジノテフラン	3kg	収穫 7 日前まで/3 回
スタークル/アルバリン顆粒水溶剤 2,000 倍液	ジノテフラン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ粉剤 DL	クロチアニジン	3~4kg	収穫 7 日前まで/3 回
ダントツ水溶剤 4,000 倍液	クロチアニジン	60~150 リットル	収穫 7 日前まで/3 回
エルサンバッサ粉剤 20DL	BPMC、PAP	3~4kg	収穫 7 日前まで/2 回

※ 同一成分を含む薬剤は使用回数に注意する。

表 2 いもち病の主な防除薬剤

薬剤名	10a当たり使用量	使用時期/使用回数	作用性
ノンプラス 粉剤DL	3~4kg	収穫 21 日前まで/2 回	予防・治療
ノンプラス フロアブル	1,000 倍/120~150 リットル		
ブラシン 粉剤DL	3~4kg	収穫 21 日前まで/2 回	
ブラシン フロアブル	1,000 倍/120~150 リットル		

遅植え稲の現在の生育の様子



図1 コシヒカリ（5月25日植え）
8月22日（千葉市緑区刈田子）の様子
出穂期は8月6日。稈長は96cmと長く、倒伏が懸念される。

◆海水流入田における稲刈り後の塩分除去について◆

塩分の除去が不十分な場合は、雨水等により土壌中の塩分を溶出させ、暗渠等により下層から排出し、塩分濃度の低下を図りましょう。

- 雨水等を地下浸透させるため、畦畔等からの漏水が無いように見回り、処置する。
- 暗渠が入っている場合は、暗渠栓は開けておく。
- 排水路の水位を下げ、地下浸透を助長させる。
- 耕起は除塩を促進させる。しかし代かきについては、地下浸透を抑えるため、秋冬期は実施しない。